

DIAMOND

KeePer®

WDIA

KeePer®

ダイヤモンドキーパーシリーズ  
作業マニュアル

---

KeePer技研株式会社

# ダイヤモンドキーパーで使用するツール

## STEP.2 汚れ落とし工程で使用

- 爆ツヤ
- 爆ツヤ専用小分けボトル
- スponジ 青



## STEP.3 ガラスコーティング STEP.4 レジンコーティングで使用

- ダイヤモンドキーパーケミカル
- レジン2
- マイクロスponジ
- レジン用スponジ
- ダイヤクロス
- レジンクロス



- キーパーチェックボード



## 便利品

- ブレーキダストクリーナー(B.D.C)



- B.D.C用スプレー容器



- ホイール用スponジ



- キーパクロス



- タイヤキーパー



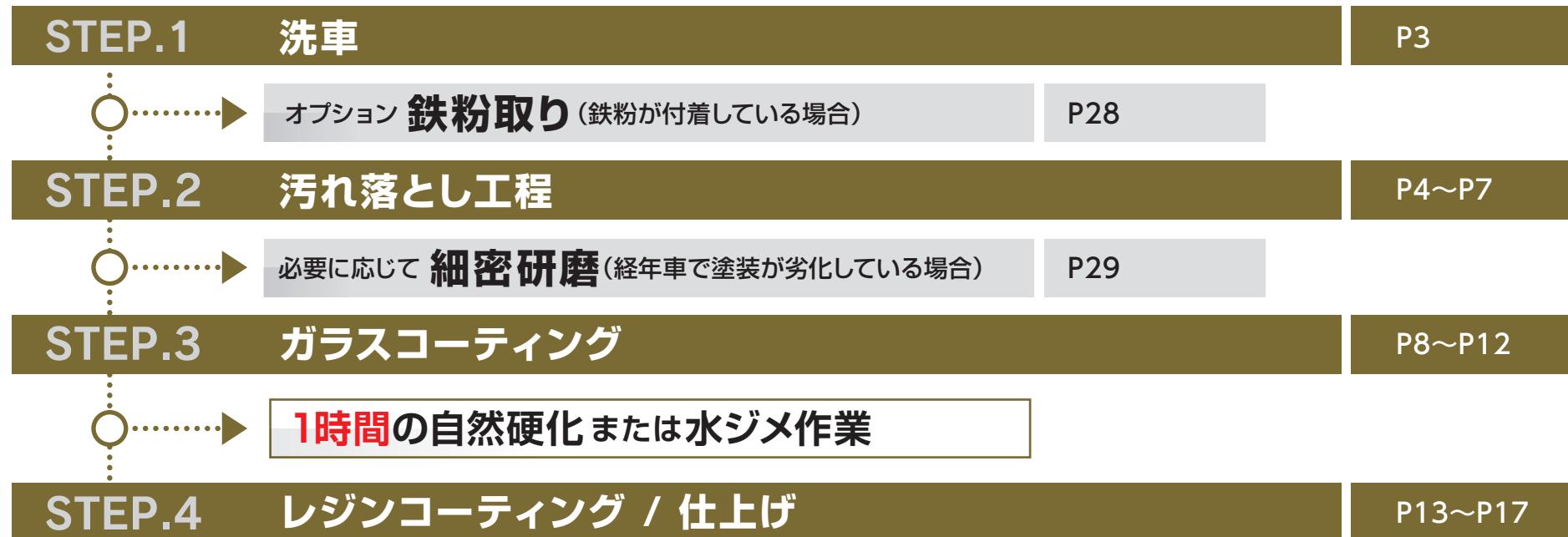
- 柄付 タイヤスponジ



- 快洗タオル



## ダイヤモンドキーパー 作業の流れ



⚠ 注意:アドバンストドライブのLiDAR表面にはボディーコートを施工しないでください。

撥水コーティング剤がLiDAR表面に付着すると、雨天時にセンサ表面に細かな水滴が発生し、センサーが汚れと誤検知され、「LiDAR一時使用できません」と表示される場合があります。(レクサス「LS」・トヨタ「ミライ」等)



(写真) フロントナンバー下のLiDAR

# STEP. 1 洗車

## ① 手洗い又は、洗車機で水洗いをします



● 経年車の場合、汚れに応じて

下記の専用ケミカルをあらかじめかけておくと  
その後の前処理の作業効率がよくなります。



「虫」汚れには

### インセクトリムーバー

#### 使用するツール

インセクトリムーバー  
(ボディ・ガラス面の強力虫取り剤)



虫が付いている箇所に水をかけ  
インセクトリムーバーをスプレーする。

「ピッチ・タールの汚れ」には

### タールリムーバー

#### 使用するツール

タールリムーバー  
(ピッチ・タールクリーナー)



ピッチが付いている箇所に水をかけ、  
タールリムーバーをスプレーする。

「ホイールの油汚れ・ブレーキダスト」には

### ブレーキダストクリーナーB.D.C

#### 使用するツール

ブレーキダストクリーナーBDC  
(自動車用ホイール洗浄剤)



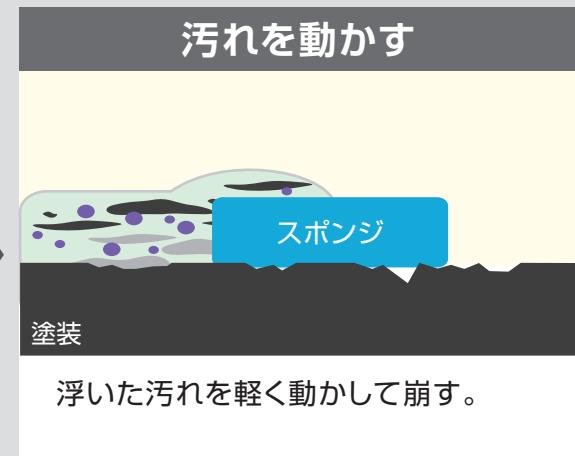
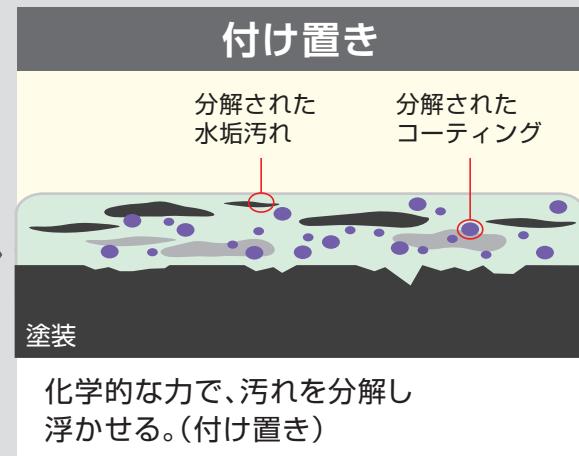
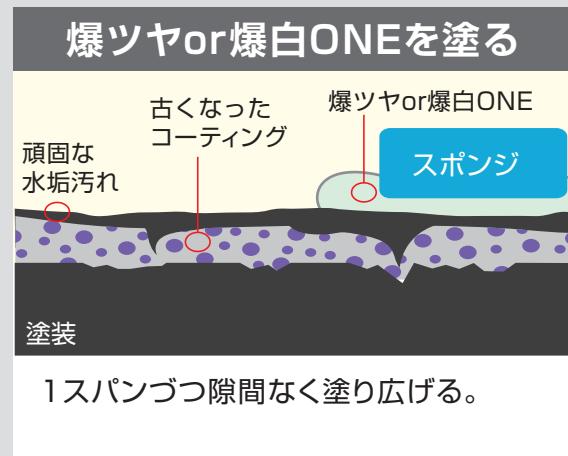
B.D.Cをホイールの中心から噴き付け、  
汚れが浮いてきたら高圧スプレーで洗い流す。

※ホイールコーティングをする場合は、  
「ホイールクリーナー」で前処理を行います。



# STEP. 2 汚れ落とし工程

## 塗装表面の汚れを落とします



## 用意するもの



### 爆ツヤ (水垢落とし剤)

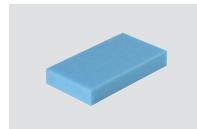
- どれだけゴシゴシ擦ってもキズが付くどころか、むしろツヤが出るほど安全性を持った未だかつてない超安全な、強力洗浄剤です。
- 洗浄能力は爆白ONEの87%。コーティング塗布前の「脱脂」の機能まで持っています。
- 特に新車、黒色車に最適です。



### 爆白ONE (水垢落とし剤)

- アルカリの化学的な力と、超微粒子パウダーの物理的な力を併せ持ちながら、塗装を決して傷めない安全かつ強力な水垢除去剤です。(特許登録済)
- 水垢汚れだけでなく、古くなったコーティングをすっきりと落とすことができ、あらゆるコーティングの下地処理として有効です。  
<特許番号 第4077734号>

### ●スponジ 青



### ●作業用ゴム手袋 (爆ツヤ・爆白ONE作業時のみ使用)



### ●ラ・モップ II



## STEP.2 汚れ落とし工程

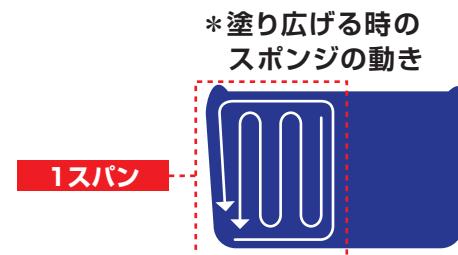
洗車後、ボディが濡れた状態で作業を行う

### ① 「爆ツヤ」を「スポンジ 青」に適量取る

\*太線1本



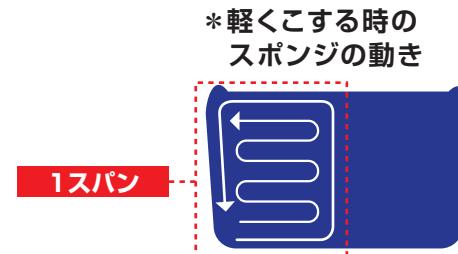
### ② ボンネット半分位の面積に 一定方向に隙間なく フチまで塗り広げる



### ③ 3スパンまで①②の作業を繰り返す



### ④ 1スパン目に戻って、 塗り広げた塗装面を 軽くこする(汚れを動かす)



## STEP.2 汚れ落とし工程

### ⑤ ボディ全体に①～④の作業を行う

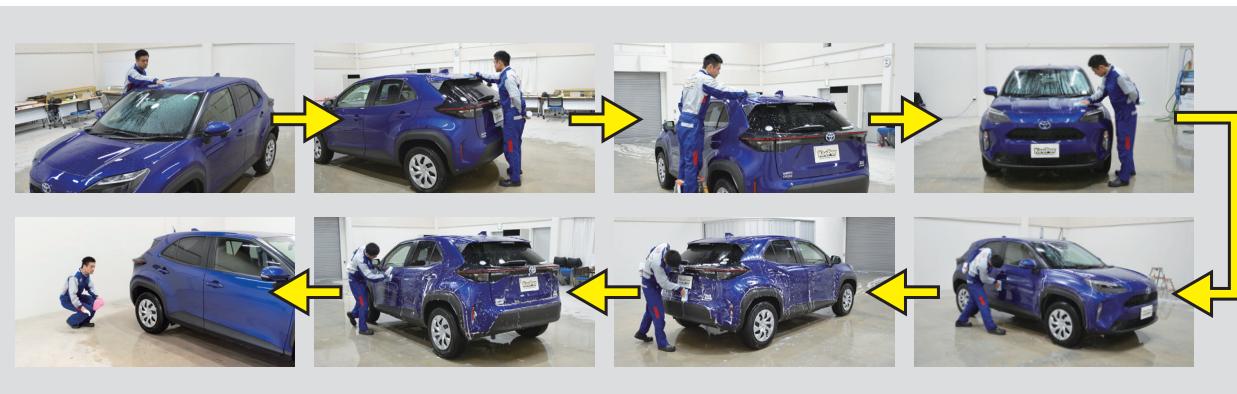
⚠ 注意:

- 作業中ボディが乾きそうな時には、水をかけて乾かないようにすると作業が早くすみます。(乾いても塗装に害はありません)
- ガラス面に撥水加工されているお車の場合、撥水効果が落ちることがあります。液ダレしないように注意してください。



脱脂工程の流れ

右前ルーフ→右後ルーフ→トランク→  
左後ルーフ→左前ルーフ→左ボンネット→  
右ボンネット→右フロントフェンダー→  
右前ドア→右後ドア→右リアフェンダー→  
リア周り→左リアフェンダー→左後ドア→  
左前ドア→左フロントフェンダー→  
フロント周り



### ⑥ 「爆ツヤ」をしっかり洗い流す

参考

- 隙間や細かい部分を特にしっかりと洗い流します。



## STEP.2 汚れ落とし工程

### ⑦ プラセーヌで水減らしをし、 エアーガンでタオルで拭けない隙間の水を飛ばす

⚠ 注意

- 塗装にエアーガンを近づけ過ぎると、  
塗装を飛ばす恐れがあるため、50cm程離します。

👉 参考

- ドアミラー、ドアノブ、ワイパー周り、バイザー内側、給油口、アンテナ、  
ホイール・タイヤ、フロントグリルは、特に念入りに行います。



### ⑧ ボディ、窓、ステップ、ボンネットの裏の 水を拭き上げ

⚠ 注意：

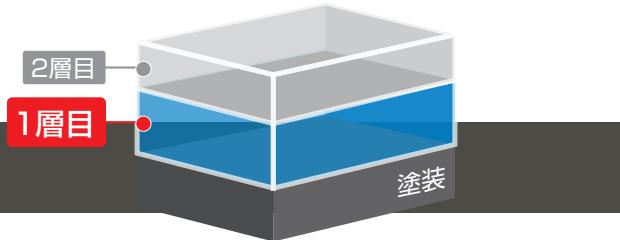
- ステップ、ボンネット裏は砂やホコリ等が付着するので、  
別のタオルを使用してください。  
ステップ等を拭いたタオルを窓ガラス、  
ボディで使用するとキズの原因になります。



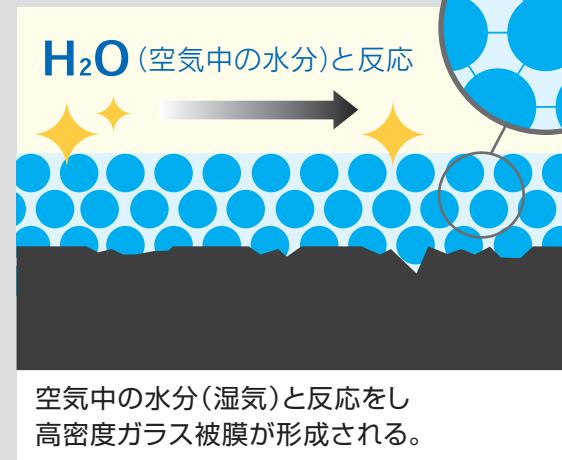
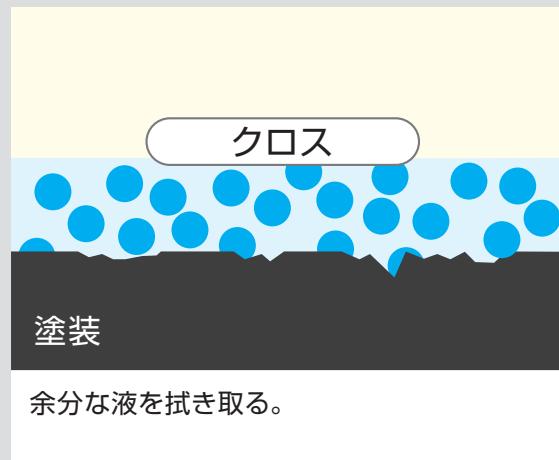
👉 参考

- ボディの水滴を「キーパークロス」、窓の水滴を「快洗Taoる」で拭き取ってください。

# STEP. 3 ガラスコーティング



## 一層目のガラス被膜を形成します

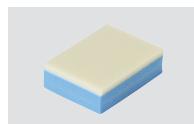


## 用意するもの



**ダイヤモンドキーパーケミカル**  
(ボディガラスコーティング剤)

- 最高級品質のツヤと光沢を出す本物のボディガラスコーティング剤。施工性の良さも魅力です。
  - 塗装を傷める成分を一切含まないので、安全に施工することができます。
- <ドイツSONAX社と共に開発商品>



**マイクロスponジ**

新品を使用してください。



**ダイヤクロス (×4枚以上)**

新品を使用してください。  
※このダイヤクロスでの拭き上げが絶対に必要です。



## STEP.3 ガラスコーティング

### 塗装面が乾いた状態で作業を行ってください。

- ダイヤモンドキーパーの施工はピット内などホコリのない場所で行ってください。

ホコリが舞うようなところでの施工はボディに傷をつける原因となります。



- 炎天下はもちろん、温度が高い場所での施工は避けてください。

炎天下やボディが熱い状態で施工すると急激な反応により、塗りムラや拭きづらくなるといった現象が出る場合があります。ボディが熱い場合は、よく冷ましてから施工してください。

#### ① 乾いた「マイクロスポンジ」に「ダイヤモンドキーパーケミカル」をスプレー



- 飛散した「ダイヤモンドキーパーケミカル」が付着しないよう、車に背を向けて、スプレーノズルと「マイクロスポンジ」を近づけてスプレーします。

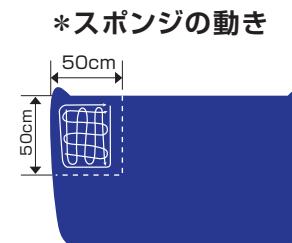
\*最初は2往復 \*以降は1往復  
(Wの字) (Vの字)



#### ② 約50cm四方の面積に、タテヨコに隙間なくフチまで塗り広げる



- 1スパンの面積を約50cm四方の面積よりも広くしないでください。(被膜として必要な厚みが確保できません)



\*スポンジの動き  
スポンジを軽く握るように持つ



- スポンジの動きが重く感じたら「ダイヤモンドキーパーケミカル」を足してください。

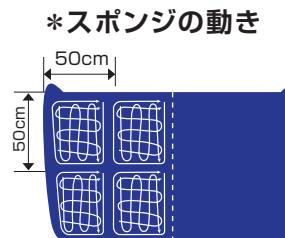
## STEP.3 ガラスコーティング

### ③ ボンネット半分位の面積に

#### ①②の作業を繰り返す



- 湿度が高い場合は、③の面積を小さくすると施工しやすくなります。

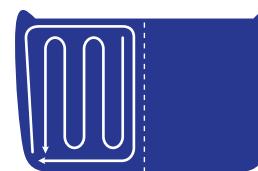


### ④ 1枚目の乾いた「ダイヤクロス」で拭く



- ケミカルが硬化する前に拭き上げてください。
- クロスは面を換えながら拭き上げてください。

\*クロスの動き



\*クロスの持ち方

クロスのカドを親指で  
ロックするように挟む

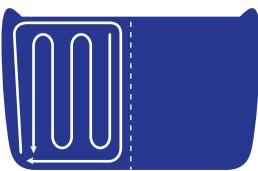


### ⑤ 2枚目の乾いた「ダイヤクロス」で 仕上げる



- 塗布した面積よりも、少し広く拭くことでキレイに仕上がります。

\*クロスの動き



## STEP.3 ガラスコーティング

### ⑥ ボディ全体に①～⑤の作業を行う



- ゴム・無塗装樹脂パーツなど、ボディ以外のパーツに付かないように塗布してください。(付いても害はありません)

コーティングの流れ

右前ルーフ→右後ルーフ→トランク→左後ルーフ→左前ルーフ→  
左ボンネット→右ボンネット→右フロントフェンダー→  
右前ドア→右後ドア→右リアフェンダー→リア周り→  
左リアフェンダー→左後ドア→左前ドア→  
左フロントフェンダー→フロント周り



#### ワンポイントアドバイス

##### ●拭き残しが取れない場合は…

ダイヤモンドキーパーケミカルをマイクロスポンジに少量付け、その部分を軽くこすってから、速やかに拭き取りましょう。

##### ●飛散したダイヤモンドキーパーケミカルがボディ以外に付いた場合は…

ウインドウガラス編

窓用クリーナーなどを、  
キーパークロスに付けてこすると簡単に落ちます。

ゴム、プラスチック編

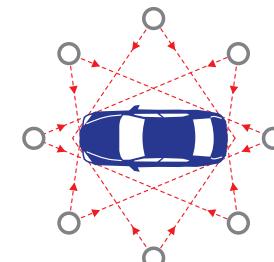
湿らせて固く絞ったキーパークロスで  
拭き取ります。

### ⑦ 拭き残しなどを確認

施工を終えたら、いろいろな角度から  
施工車を見て、拭き残しがないか確認します。



- 1m位離れたところから角度を変えてチェックします。
- 上面は、蛍光灯などの映り込みを見ながら拭き残しがないか確認します。
- 側面は、ボディに映り込んだ「白いボード」等に拭き残しがないか確認します。



## STEP.3 ガラスコーティング

### ⑧ 1時間の自然硬化 または 水ジメ作業

屋内で1時間の自然硬化または、水ジメ作業を行う



- 屋内で1時間の自然硬化と、  
水ジメ作業で時間短縮をした場合では  
仕上がりと品質は変わりません。

水ジメを行う場合の使用ツール

- ①純水・純水用蓄圧式スプレー
- ②キーパークロス
- ③プラセーヌ



水ジメを行う場合

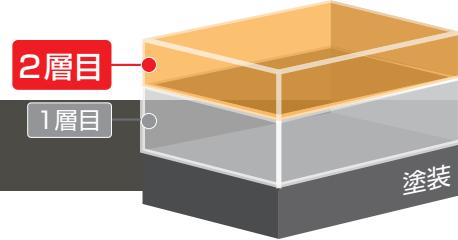


ボディ全体に  
「純水」のミストを  
噴きかける

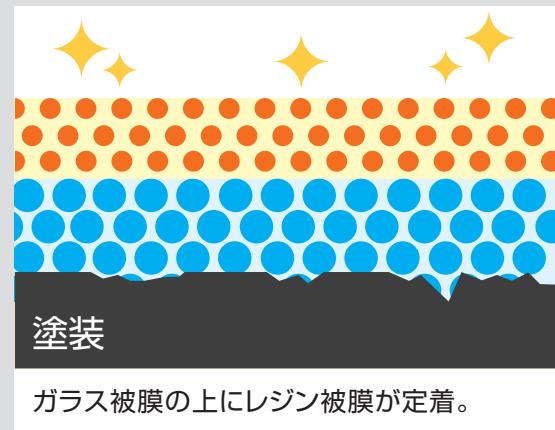
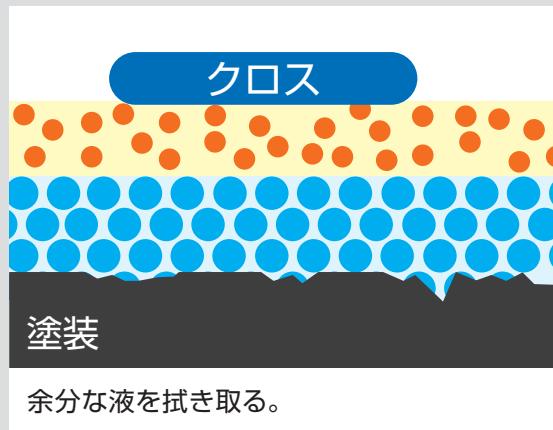
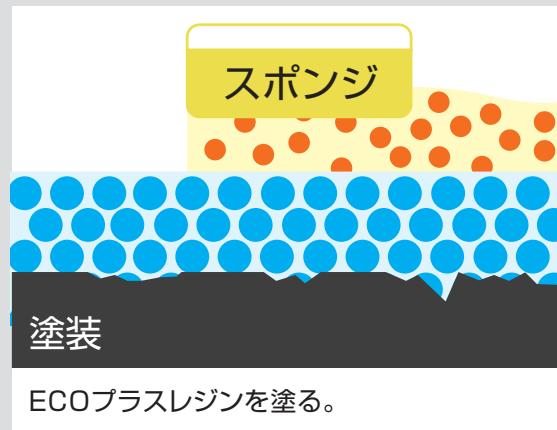
「純水」をプラセーヌで  
拭き取りながら  
ガラス被膜表面を  
締めます

残った水滴は  
「キーパークロス」または  
「快洗タオル」で  
拭き取る

# STEP. 4 レジンコーティング



## 2層目のレジン被膜を形成します



## 用意するもの



**レジン2** (レジンコーティング剤)

●ダイヤモンドキーパーケミカルの被膜の上に重ね塗りをすることで、強撥水性のレジン被膜を形成することができます。  
<特許出願公開番号・特開2009-112952>



**レジン用スポンジ**

レジン2用のスポンジ



**レジンクロス** (×6枚以上)

レジン2の  
拭き上げ用のクロス。



## STEP.4 レジンコーティング

### ① 「レジン2」の缶を逆さにしてよく振る



### ② 乾いた「レジン用スポンジ」に 「レジン2」の缶を立ててスプレー



- 飛散したレジン2が付着しないよう、車に背を向けて、スプレーノズルと「レジン用スポンジ」を近づけてスプレーします。

\*最初は2往復  
(Wの字)



\*以降は1往復  
(Vの字)



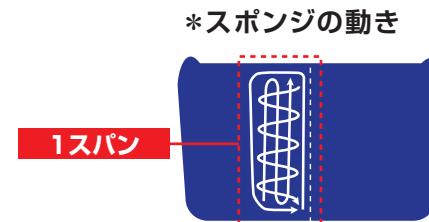
### ③ ボンネット1/4位の面積に タテヨコに隙間なく フチまで塗り広げる



- 1スパンの面積をボンネット1/4よりも広くしないでください。(被膜として必要な厚みが確保できません)



- 「レジン用スポンジ」の動きが重く感じたら「レジン2」を足してください。



\*スponジの持ち方  
スponジを  
軽く掴むように持つ

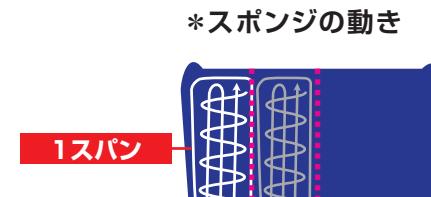


## STEP.4 レジンコーティング

### ④ となりのスパンに、 ①～③の作業を繰り返す



- となりのスパンと少し重なるようにして  
隙間なく塗り広げてください。



### ⑤ 1枚目の乾いた「レジンクロス」で クロスの面を換えながら2回拭く



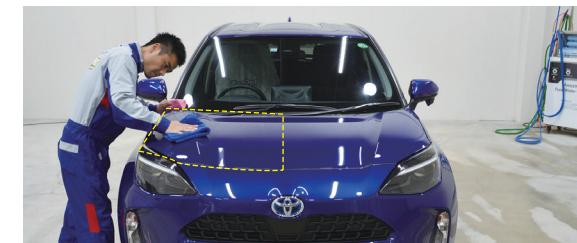
- 「レジン2」が乾く前に速やかに拭き上げてください。
- 拭き取りにくくなったら、「レジンクロス」を換えてください。
- 塗布した面積よりも、少し広く拭くことでキレイに仕上がります。



### ⑥ 2枚目の乾いた「レジンクロス」で クロスの面を換えながら2回仕上げ拭き



- クロスは面を変えて拭き上げてください。
- 「レジンクロス」はどちらの面を使用しても  
仕上がりに差はありません。
- 拭き取りにくくなったら、「レジンクロス」を换えてください。



## STEP.4 レジンコーティング

### ⑦ ボディ全体に①～⑥の作業を行う

⚠ 注意:

- エンブレムやドアノブなど、細かな部分に「レジン2」が入り込まないように注意してください。
- もし「レジン2」が隙間に入った場合は、エアーガンで吹き飛ばしてください。



コーティングの流れ

右前ルーフ→右後ルーフ→トランク→左後ルーフ→左前ルーフ→  
左ボンネット→右ボンネット→右フロントフェンダー→  
右前ドア→右後ドア→右リアフェンダー→リア周り→  
左リアフェンダー→左後ドア→左前ドア→  
左フロントフェンダー→フロント周り



※作業の途中で拭き取りにくくなったら、「レジンクロス」を換えてください。

### ⑧ 仕上げ拭き

参考

- ボディは乾いた(または固絞り)「レジンクロス」で  
仕上げ拭きします。  
窓、レンズ類、ゴム、無塗装樹脂パーツは、  
水で固く絞った「キーパークロス」で優しく拭き上げます。
- 上面は、蛍光灯などの映り込みを見ながら  
拭き残しがないか確認します。
- 側面は、ボディに映り込んだ「白いボード」等に  
拭き残しがないか確認します。



蛍光灯などの映り込みを見ながら  
拭き残しがないか確認します。

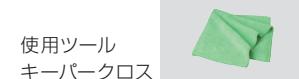


ボディに映り込んだ「白いボード」に  
拭き残しが映らないか確認します。



白い車(淡色車)は「日陰で作業灯」を使って  
映り込みを見ながら確認します。

使用ツール  
キーパークロス



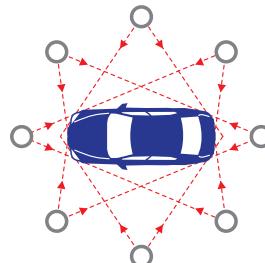
## STEP.4 レジンコーティング / 仕上げ

### ⑨ 最終確認

もう一度、全体がしっかりとコーティングがされているか、拭き残しがないか、いろいろな角度から確認します。



- 1m位離れたところから角度を変えてチェックします。



### ワンポイントアドバイス

#### ●コーティング施工時のNGな動作集



スポンジを押さえる時に力を



スポンジを握るようにして使う



クロスを握るようにして使う



クロスを広げたまま使う



円を描くように塗布する



容器や道具をボディに載せる

#### ●拭いても取れないムラがある場合はダイヤモンドキーパーケミカルの拭き残しです。

ダイヤモンドキーパーケミカルをマイクロスポンジに少量付け、拭き残しのある部位を軽くこすってから、ダイヤクロスで速やかに拭き取り、再度レジ



## Wダイヤモンドキーパーで使用するツール

### STEP.2 汚れ落とし工程で使用

- 爆ツヤ
- 爆ツヤ専用小分けボトル
- スponジ 青



### STEP.3 ガラスコーティング STEP.4 レジンコーティングで使用

- ダイヤモンドキーパーケミカル(×2本)
- レジン2
- マイクロスponジ
- レジン用スponジ
- ダイヤクロス
- レジンクロス



### 便利品

- ブレーキダストクリーナー(B.D.C)



- B.D.C用スプレー容器



- ホイール用スponジ



- キーパークロス



- タイヤキーパー



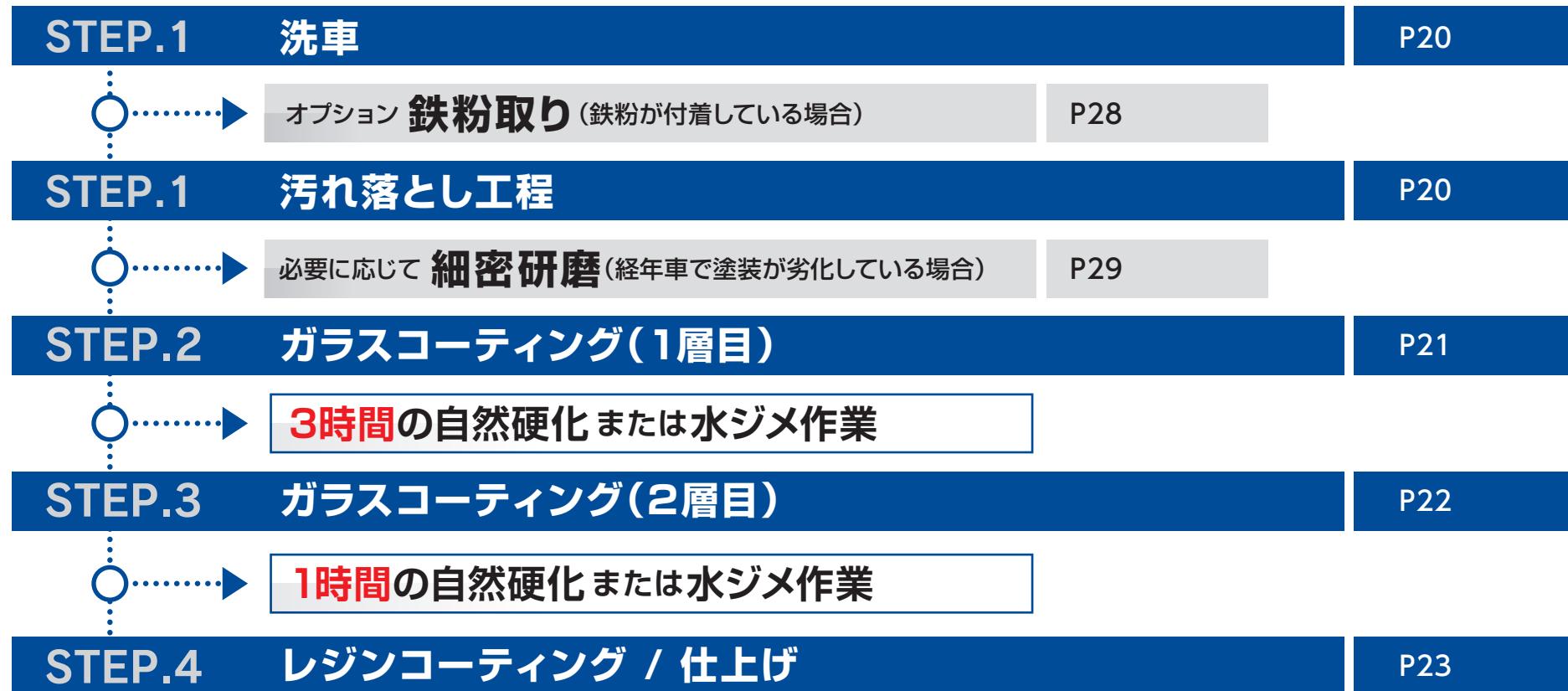
- 柄付 タイヤスponジ



- 快洗タオル



## Wダイヤモンドキーパー 作業の流れ



⚠ 注意: アドバンストドライブのLiDAR表面にはボディーコートを施工しないでください。

撥水コーティング剤がLiDAR表面に付着すると、雨天時にセンサ表面に細かな水滴が発生し、センサーが汚れと誤検知され、「LiDAR 一時使用できません」と表示される場合があります。(レクサス「LS」・トヨタ「ミライ」等)



(写真) フロントナンバー下のLiDAR

## Wダイヤモンドキーパー・Wダイヤモンドキーパープレミアム 施工内容

### ダイヤモンドキーパー



### ダイヤモンドキーパープレミアム



### STEP. 1 洗車、汚れ落とし工程

- 洗車、コーティング前処理をしっかりと行います

参照:P3~P7



# STEP. 2 ガラスコーティング(1層目)

## ① 1層目のガラスコーティングを施工する

施工内容は  
「ダイヤモンドキーパー STEP3 ガラスコーティング」参照  
参照ページ : P8~ P12



## ② 3時間自然硬化 または 水ジメ作業

屋内で3時間の自然硬化または、水ジメ作業を行う

### 参考

- ガラスコーティング1層目と2層目の間は  
屋内で3時間の自然硬化もしくは  
水ジメ作業が必要です。
- 水ジメ作業で時間短縮をした場合でも  
仕上がりと品質は変わりません。

水ジメを行う場合の使用ツール

- ①純水・純水用蓄圧式スプレー
- ②キークロス
- ③プラセーヌ



### 水ジメを行う場合



ボディ全体に  
「純水」のミストを  
噴きかける

「純水」をプラセーヌで  
拭き取りながら  
ガラス被膜表面を  
締めます

残った水滴は  
「キークロス」または  
「快洗タオル」で  
拭き取る

# STEP. 3 ガラスコーティング(2層目)

## ① 2層目のガラスコーティングを 1層目と同じスパン、同じ手順で施工する



- 硬化時間の後、ボディにホコリが乗っている場合は、エアーガンでホコリを飛ばしてから次の作業をしてください。  
もし、ボディに汚れが多く乗ってしまった場合は、洗車(拭き上げ)をしてから次の作業をしてください。
- 水のかからない場所で、保管をしてください。



## ② 1時間自然硬化 または 水ジメ作業

### 屋内で1時間の自然硬化または、水ジメ作業を行う



- ガラスコーティング2層目とレジンコーティングの間は屋内で1時間の自然硬化もしくは水ジメ作業が必要です。
- 水ジメ作業で時間短縮をした場合でも仕上がりと品質は変わりません。

水ジメを行う場合の使用ツール  
①純水・純水用蓄圧式スプレー  
②キーパークロス  
③プラセーヌ



#### 水ジメを行う場合



ボディ全体に  
「純水」のミストを  
噴きかける



「純水」をプラセーヌで  
拭き取りながら  
ガラス被膜表面を  
締めます



残った水滴は  
「キーパークロス」または  
「快洗タオル」で  
拭き取る

# STEP. 4 レジンコーティング / 仕上げ

## ① レジンコーティングを施工する

施工内容は

「ダイヤモンドキーパー STEP4 レジンコーティング」参照

参照ページ: P13~P17



## ② 仕上げ拭き



- ボディは乾いた(または固絞り)

「レジンクロス」で、窓は「キーパークロス」を使って仕上げ拭きをします。

使用ツール  
キーパークロス



蛍光灯などの映り込みを見ながら拭き残しがないか確認します。



ボディに映り込んだ「白いボード」に拭き残しが映らないか確認します。



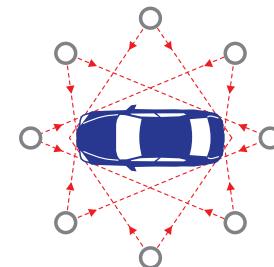
白い車(淡色車)は「日陰で作業灯」を使って映り込みを見ながら確認します。

## ③ 最終確認

もう一度、全体がしっかりコーティングがされているか、拭き残しがないか、いろいろな角度から確認します。



- 1m位離れたところから角度を変えてチェックします。



DIAMOND



WDIA



プレミアム仕様

ダイヤモンドキーパーシリーズ  
プレミアム作業マニュアル

## ダイヤモンドキーパー・ダイヤモンドキーパープレミアム 施工内容

### ボディ

ダイヤモンドキーパーケミカル  
レジン2



### レンズ・バイザー

ポリカート



### 窓ガラス

ウインドウガラスフッ素  
グラスポリッシャーGPⅢ



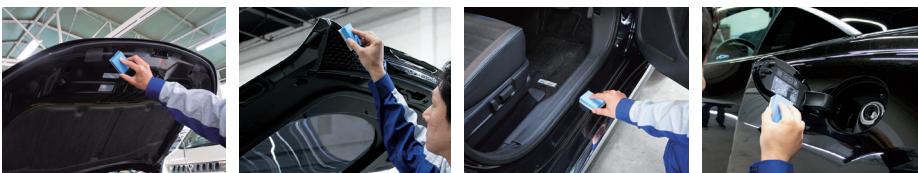
### エンジンルームの中

レジン2  
ホイールクリーナー



### ボンネット・トランク・ドア・給油口の内側

ダイヤモンドキーパーケミカル・レジン2



### ホイール

ホイールコーティング2



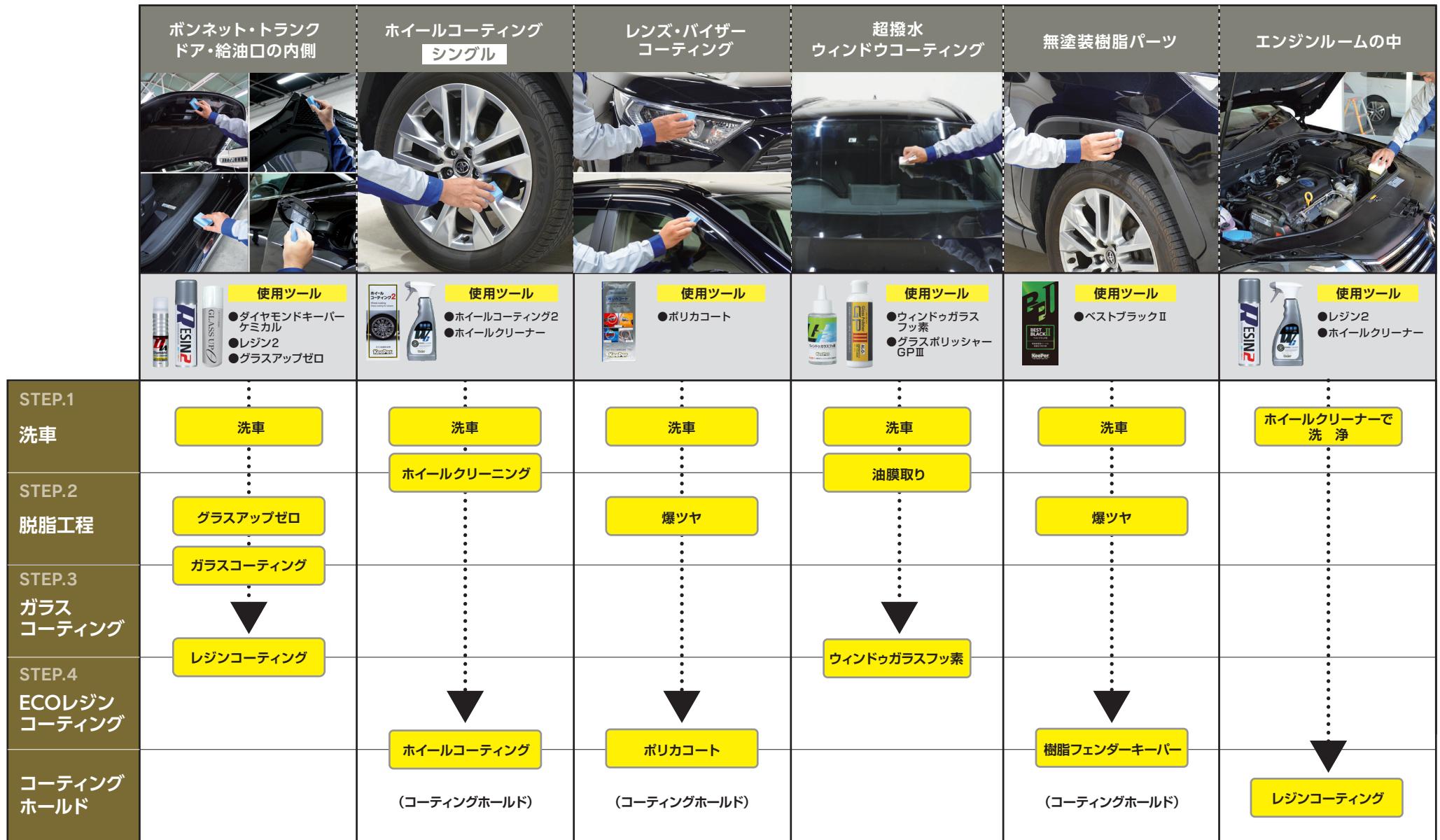
### 無塗装樹脂パーツ

ベストブラックII



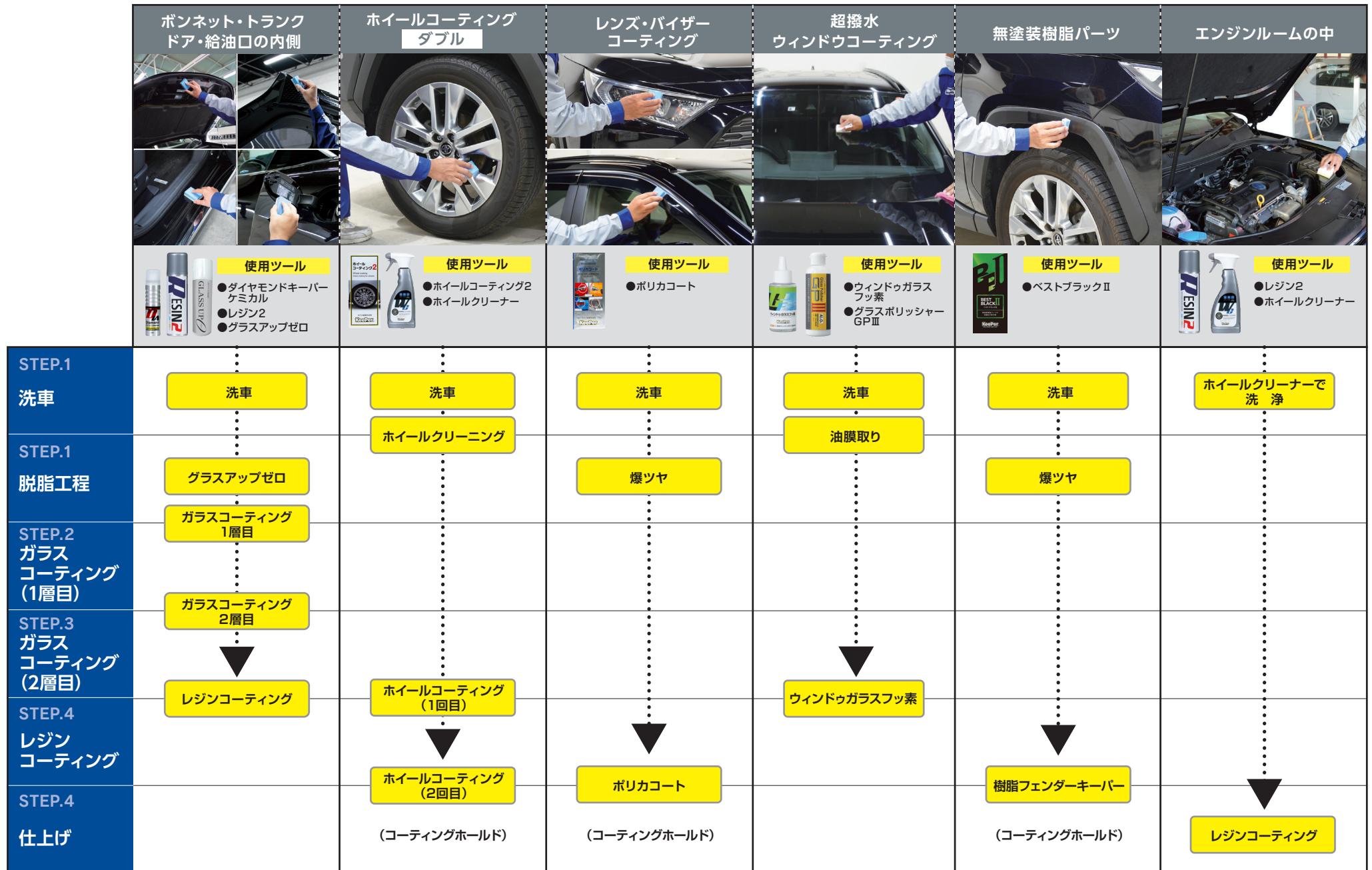
※ダイヤモンドキーパーは【シングル】  
※Wダイヤモンドキーパーは【ダブル】

## ダイヤモンドキーパープレミアム 作業の流れ



※ダイヤモンドキーパーのホイールコーティングは【シングル】になります。※各工程の作業内容は別途マニュアルを参考ください。

# Wダイヤモンドキーパープレミアム 作業の流れ



※Wダイヤモンドキーパーのホイールコーティングは【ダブル】になります。※各工程の作業内容は別途マニュアルを参考ください。

# ① オプション 鉄粉取り（鉄粉が付着している場合）

## 鉄粉取り

塗装面に鉄粉が付着している場合のみ  
行います



⚠ 注意：塗装面が濡れた状態で作業を行ってください。

### STEP.1 ピュアアップ4

- ① 洗車を行い、濡れた塗装面にピュアアップ4を  
ボンネット半分程度にスプレーし  
手で伸ばす



- ② 30~40cm四方を1スパンとし  
トラップ粘土(青)でタテヨコに素早くこする

⚠ 注意  
● ピュアアップ4が乾かないように注意してください。

👉 参考  
● ボディが乾きそうになったら水をかけてください。  
● 鉄粉が取れたか、手で確認しながら作業を行ってください。



### ③ ①～②の作業を

鉄粉の付着している箇所に行う

⚠ 注意  
● 鋭角なプレスラインは、またがないように  
作業してください。  
● 1度地面に落とした粘土は廃棄し、使わないでください。



## 鉄粉取りで使用するツール

- ピュアアップ4
- アイアンイーター
- トラップ粘土 青



### STEP.2 洗い流し

#### …→ ① 水で洗い流す



⚠ 注意  
● ピュアアップ4が乾いてこびり付いた場合は、  
ファイナル1で擦ると取れます。



#### 多量の鉄粉が付着している場合

- 用意するもの  
●アイアンイーター  
(鉄粉除去剤)



①濡れたボディに  
アイアンイーターをスプレーする。

②日陰で乾かない程度に  
つけ置く。

③洗い流し、  
STEP.1～2の作業を行う。

## ② 必要に応じて 細密研磨（経年車で塗装が劣化している場合）

### 細密研磨

塗装表面が相当劣化している場合のみ  
行います



#### 細密研磨で使用するツール

- アクアポリッシュ2
- RUPES（ルペス）LHR12E（回転数目安：3～4）
- 低反発バフ
- マイクロスponジ
- マスキングテープ



⚠ 注意：塗装面が乾いた状態で作業してください。

#### STEP.1 マスキング

##### ① 洗車後、マスキングをする



- 参考
- ワイパー付近やウォッシャーノズルなど、必要な箇所をタオルやマスキングテープで保護してください。



#### STEP.2 アクアポリッシュ2

##### ① 「アクアポリッシュ2」をボンネット1/4の面積に適量つけて塗り広げる

\*大豆1～2粒くらいの量



##### ② タテヨコに磨く



- 注意
- 安全のため「低反発バフ」を塗装面と平行に軽く当ててから、スイッチを入れます。
- バフは塗装面と平行に当てて磨いてください。  
バフの回転が止まるほど強く押さないでください（機械の故障に繋がる）
- ゴム部、黒い樹脂部にはポリッシャーを当てないようにしてください。
- ポリッシャーのコードが車に触れないように、上面を施工する時は、コードを肩にかけて作業してください。
- プレスラインは「ポリッシャー」がクロス方向にまたがないように作業をしてください（下地が出やすくなり危険）



##### ③ 細かい部分を「アクアポリッシュ2」をつけた「マイクロスponジ」で磨く



#### STEP.3 洗い流し

##### ① 水で洗い流し、再度洗車を行う



- 注意
- マスキングを剥がす際は、水で湿らせてからゆっくりと剥がしてください。



- 参考
- 隙間や細かい部分を特にしっかりと洗い流します。
- 洗車後、残ったアクアポリッシュ2はキーパーコロス（マイクロファイバーコロス）で拭き取ります。

